

財務大臣賞

「ボクは税金今日もどこかで・・・」

甲府市立東中学校 1年

深澤 昂

僕は、税金の立場や役割をより深く知るために税金視点で考えてみた。

ボクは税金。ボクは時々きらわれることもある。「なんでこんなに取るんだ」「税金がむだに使われている」そんな声をきくたび少し悲しい気持ちになる。でもボクは、毎日みんなを支えている。ボクは「支え合い」のカタチなんだ。

朝、みんなが登校している。教室や先生の給料。実は、その多くがボクの力でまかなわれているんだ。他にも道の整備、警察や消防災害時の復旧や避難所の設置も、実はボクが支えているんだ。ボクはいろいろな所でたくさんの人々を支えているんだよ。でもこんな声もある。「税金って、どこに使われているかわからない」たしかに、見えづらい存在かもしれない。でもボクは誰かのために使われている。一人ひとりが出てくれたお金が集まり、多くの人々や暮らしを守る力になっているんだ。

例えば突然の地震や台風が起きたとき。壊れた道路や建物の修復、避難所の設営被災者の支援。みんなの力が集まったボクだからこそ、すぐに動ける。

ボクは、主に働く人たちから集められる。なので、特に社会人からは厳しい目で見られることもある。けれど、自分の家族や大切な人を守るために、ボクが使われていると気づいてもらえるとうれしい。

もちろんボクはかんべきじゃない。むだに使われてしまうこともあるし、疑問を持たれることもある。だからこそどう使われているかを知ってほしい。ニュースや選挙などを通して、みんなが関心を持ってくれるだけでボクはもっとよくなる。

最近では、環境問題や子育て支援、少子高齢化への対策にも使われるようになった。時代とともにボクの役割も変わっていく。未来の世代が安心して暮らせるように、これからもボクは成長し続けたいと思っている。

そして何より、ボクは「信頼」で成り立っている。どれだけ集められても、正しく使わなければ意味がない。だからこそ、ボクが信頼される存在であるために、みんなの目が必要なんだ。「みんなの目」とは、「関心、注目、監視」のことを意味しているよ。

もっと若い世代の人々にも、ボクのことを知ってほしいと思っている。ボクは大人だけの話ではない。これから社会をつくっていく中高生がもっとボクについて考えることが未来を支える力になる。

ボクは税金。見えにくいけど、みんなの生活の中にいつもいる。誰もが笑って暮らせるように、ボクは今日もどこかで支えている。

今、これをよんでいるあなた。ボクにどのような感情をいただきましたか？これを読んでもう一度税金について考え、よりよい税金の使われ方、よりよい未来になればうれしい。